

特集 医療現場から考える 南海トラフ地震への備え

トクダイ研修医

医療現場の最前線「徳島大学病院 再生医療細胞調整センター」

医療のギモン「レントゲン・CT・MRI」



南海トラフ地震への備え



元日から大きな地震に見舞われた2024年。今後30年以内に起こるといわれている南海トラフ地震も、私たちの暮らす徳島県へ甚大な被害が及ぶことが予想されています。そこで今、私たちにできることは何なのか。医療的観点から見た地震への備えについて、徳島大学病院の取り組みと『DMAT(災害派遣医療チーム)』の現地活動も交えお話を伺いました。

災害時、徳島大学病院の取り組み

徳島大学病院では、災害時の医療体制を整え、緊急時の対応を想定し、さまざまな準備を行っています。

災害時医療の中心的存在として

2012年3月から、徳島大学病院は「災害拠点病院」に指定されています。「災害拠点病院」とは、その名の通り災害時の医療において、中心的役割を果たす病院のことで、負傷患者の受け入れはもちろん、十分な医療を受けられるように広域搬送を行ったり、医療救護チームの派遣に対応したりします。

さらに年1回、徳島県立中央病院と合同で訓練を実施しています。地震の規模や状況にもよりますが、徳島県立中央病院は広域に患者さんを受け入れる体制を取り、そのなかでも重症度が高く、高度な医療を要する患者さんは徳島大学病院が率先し引き受けるなど、それぞれの強みを活かしながら災害時にスムーズな対応ができるよう連携を深めています。



医療現場がその機能を果たすために

みなさんにも想像がつくように災害時の医療は、非常にひっ迫します。普段は患者数に対して余剰のある医療資源ですが、災害時には逆転現象が起こるのです。そこで一人でも多くの人を助けるため、トリアージ(傷病の緊急度や重症度に応じて治療優先度を定める行為)を行いながら、私たちは厳しい状況の中で医療にあたります。特に大きな病院では入院中の患者さんの命を守るために自家発電ができるようになっていますが、これにも限りがあります。

災害時の避難では安全でライフラインが整う病院を目指しますが、すぐに医療を必要としない健康な方は、所定の避難所へ移動してください。貴重な医療資源が必要とする人に行き渡るよう、みなさんの協力が不可欠です。



徳島から、被災地を支える

徳島大学病院は『DMAT(災害派遣医療チーム)』を保有しています。『DMAT』とは医師、看護師、後方支援を行うロジスティックスの4~5名ほどで構成された医療チームのことで、被災した地域に派遣され、現地で医療活動を行います。大きな災害が起こった際には、全国の『DMAT』へ瞬時に連絡が入り、それぞれが出勤に備えます。

今年1月の能登半島地震の発生直後にも、徳島大学病院の『DMAT』へ即座に連絡が入りました。そこからいつでも出勤できるように必要なものを準備し待機体制を整えました。数日後には出勤要請があり、徳島大学病院チームの5名は5日間現地での活動にあたりました。今後も大きな震災等で要請があった際には、可能な限り対応し支援を続けていきたいと思っています。

能登半島地震で活動にあたる『DMAT』



現地へ向かう道は1本。雪の中、支援活動にあたる。

『DMAT』が見た、被災地の状況

2024年1月13日(土)~17日(水)までの5日間、徳島大学病院『DMAT』は、能登半島地震の被災地へ向かい医療支援を行いました。現地では避難所のスクリーニング活動や、能登町内にあるクリニックの医療サポートなどにあたりました。

震災後、広がる脅威

支援に入ったクリニックの周辺には、機能している病院がなく、遠方から受診のために大勢の人々が訪れていました。そこで驚いたのが、発熱患者の多さです。検査を行うと、発熱患者の8割近くが新型コロナウイルス感染症やインフルエンザに感染していることがわかりました。避難所での感染拡大は、話では聞いていたものの、実際に目の当たりにするとどこまでか、と思いました。すでに私たちが派遣されたときには地震発生から10日以上経過していたということもあり、患者さんに対して薬をはじめとする医療資源は十分ではないものの、なんとかやりくりすることができましたが、さらに大規模な地震になると、追いつかなくなる懸念はあると思います。



我慢が続く、被災地での生活

実は私自身、被災地の5日間の生活で激しい便秘と痔になり、一時は痛みでイスにも座れない状態になりました。仮設トイレが狭くキレイな状態ではないこともあり、トイレの回数を減らすために自然と水分を控えるようになったこと、また食事として摂っていた被災食は炭水化物中心で食物繊維が少なかったことが原因だと思えます。これ以外にも被災地での食事や生活は想像以上に身体への負担が大きく、健康を保つことが難しいと身をもって実感しました。被災地のみなさんは我慢の日が長く続き、心身ともにつらいと思います。特に持病がある人や高齢者、子どもたちにとっては本当に厳しい環境だと思いました。

『DMAT』と聞くと「今にもがけ崩れが起こりそうな危険な場所で、身を挺して救護にあたる人たち」というイメージがあるかもしれませんが、実際にはそのような状況は珍しいです。私自身も被災地に行って感じたことですが、災害現場では『DMAT』以外にも『DPAT(ディパータ)(災害派遣精神医療チーム)』や『TEC-FORCE(テックフォース)(緊急災害対策派遣隊)』さらには自衛隊、保健所、水道局の人などさまざまな支援チームがいます。私たちの行った支援は小さなものでも、個人と各チームが途切れないように支援を続けていく。地道ですが、その一つひとつが大きな力になり、災害現場を支えていることを知っていただければと思っています。

Point 災害時は「健康を保つ」ということも難しくなりますが、避難所ではしっかりと感染症対策をし、自分の身体の状況や体質などに合わせ意識的に食事を摂るようにしましょう。

被災時の食事の重要性

避難所で印象的だったのは、慢性心不全のおじいさんが被災食のカップ麺を食べていた姿です。被災地の状況を見ると仕方がないことでしたが、災害時には高血圧や高血糖になりやすいというデータも出ており、災害を契機に持病が悪化し死に至る場合もあります。健康管理において食事は重要です。

しかし、食事管理が必要な心臓病や糖尿病患者に対しての被災食は現状ありません。そこで、被災地から戻り現在私たちは食事管理が必要な人に向けた被災食の開発に取り組んでいます。まだ今はどういった問題があるのかを洗い出している段階ですが、準備が整えば心臓病食や糖尿病食をはじめとした健康管理のできる被災食の開発を本格始動していく予定です。



DMAT隊長
救急集中治療科 科長
大藤 純 先生

DMAT隊員
循環器内科 特任助教
高橋 智紀 先生

災害時の口腔ケアの重要性

災害時、避難所生活が長期化すると虫歯や歯周病、口内炎などのお口のトラブルが増えると言われています。そこから身体へ及ぶ影響と対策について2人の先生に伺いました。



実は大事な、お口のこと

「お口の健康は、身体の健康につながる」。よく耳にする言葉ですが、この言葉には裏付けがあります。実際に、肺炎や糖尿病、腎疾患、動脈硬化、骨粗しょう症、関節リウマチ、早産、妊娠高血圧腎症といった病気は、歯周病と関連があるとされています。口は全身とつながっているため、お口の健康が損なわれると全身へと影響が及ぶのです。

しかし、災害時のお口のケアはどうしても後回しになりがちです。避難所での生活は長く続くことも予想され、元の生活に戻るまでの日々を健康に過ごすために、「口腔ケア」が重要であることを意識してもらいたいと思います。

災害関連死を予防するために

災害関連死とは、地震や津波による直接的な死は免れたものの、その後の生活で命を落としてしまうことです。そして災害関連死の死因の1位は呼吸器疾患、特に多いのが肺炎です。前述したように、肺炎と口内環境は深く関係しています。避難所の生活では、十分な口腔ケアができず、偏った食生活やストレスなどから感染症にかかるリスクが高くなります。高齢者に多い誤嚥性肺炎は、口腔内に存在している細菌が原因で起こるといわれる感染症です。大げさに思うかもしれませんが、「口腔ケア」は「命を守ること」にもつながるのです。



一番にできることは、備え

水が使える状況であれば、日常の歯磨き、うがいなどでのケアをおすすめしますが、ライフラインが整うのには時間を要すると思います。そこで役立つのが水なしで使える口腔ケアのセットです。液体歯磨きも最近ではうがいをしなくていいタイプのものがあります。小さいお子さんには歯磨きシートなどを活用しても良いと思います。また、唾液には抗菌作用や口内の汚れを流す役割があり、分泌を促すためにシュガーレスのガムを噛むのもおすすめです。

防災バックに用意しておきたい口腔ケアアイテム

- 歯ブラシ
- 液体歯磨き(うがい不要のもの)
- 歯磨きシート
- ガム(シュガーレスのもの)
- ガーゼやウエットティッシュ



Memo

もし口腔ケアグッズが用意できなければ、「ガーゼなどを少量の水でぬらして歯を拭く」「ウエットティッシュを使う」なども良いでしょう。ただ、ウエットティッシュのなかでもアルコール入りは口の中が荒れるなど刺激が強すぎる場合があるので使用は控えましょう。

広がる歯科の可能性

災害時、亡くなられた方の外的損傷がひどい場合、個人を特定する際に、比較的損傷の少ない口腔内の情報が鍵になります。現在、私たちはAIデータを用いて、口の中の状態から個人を特定するシステムの確立に向けて動いています。サーバー上にある個人の口腔内のデータと照合を行うことで、瞬時に特定ができるというものです。将来このシステムが確立すれば、亡くなられた方に限らず、認知症等で名前を名乗ることが難しい人の個人特定や災害時に紛失した入れ歯の仮作成などもスムーズに行えるようになると思います。

政府は、「国民皆歯科検診」の2025年導入を目指しています。これは現在、幼児～高校生にしか実施されていない歯科検診を、大学生や社会人に義務化を検討するという制度です。お口の健康と身体の健康の関連が明らかにされたことで、このような動きが高まっています。例えばこの検診で得られたデータが、毎年サーバー上へストックされていくと、近い将来、桃田先生たちが取り組んでいるシステムと連動してより正確に照合が行えるようになると思います。歯科の重要性を再認識いただき、人々がより健康的な生活を送れることを期待しています。

歯周病科(第二保存科) 科長
湯本 浩通 先生



口腔内科 副科長
桃田 幸弘 先生



災害への心構え



災害時には、自分自身や家族、周囲の人がケガを負うことも。簡単な応急処置の知識や判断基準を自分の中に備えておきましょう。知識や判断材料があることが、冷静な行動にもつながります。



こんなときどうする？

出血しているとき

清潔なタオルやガーゼなどで強く圧迫し、止血する
(可能であれば心臓より高い位置にすると出血がおさまりやすい)



骨折しているとき

板や傘などを使い骨折した箇所が動かないように固定する
(動くと痛いのので動かさないことが大事)



やけどしているとき

水などで冷やし、清潔なガーゼや食品用ラップで包む
(ラップで覆えばガーゼが傷口にひっつきにくい)



注意!

ケガの程度や状況によって対応が異なりますが、これらが基本の処置になります。また、傷がある場合は、そこから感染を起こすことがあるので、なるべく早く医療機関を受診するようにしましょう。

知識として備えておこう！ 重症・軽症の見分け方

実際に医師がトリアージを行う項目の中でも、みなさんが簡単に判断できるものを紹介します。必ずしも軽症である、重症であるとは言い切れませんが、一つの判断材料になりますので、知識として持っておくと安心です。

重症

- 声かけに応じず意識がもうろうとしている。
- 呼吸が荒い、速い。
- 爪を5秒間圧迫し、解除後に2秒以上爪の赤みが戻らない。

医療機関への
受診が必須

比較的軽傷

- 意識がはっきりしている。
- 自力で歩くことができる。

緊急性は低いので
落ち着いて行動を

緊急の際は迷わず119番通報してください。災害の発生により固定電話や携帯電話が通じにくい状況の場合、公衆電話は「災害時優先電話」に指定されており緊急通報ボタンを押すと優先的につながる場合があるので近くにあれば活用しましょう。また、徳島県では災害時に指定避難所を中心とした17カ所に応急救護所が設置される予定です。最寄りの救護所の情報も事前に調べておくとう安心です。

まとめ

将来大きな地震の発生に向けて今から私たちにできることは「備え」です。防災バッグには一般的なアイテムに加え、自分の身体にあわせたものを用意しておきましょう。飲み薬だけでなく目薬や保湿クリーム、病気や年齢にあわせた食料も大切です。例えば衛生面を気にする性格であれば除菌アイテムや簡易トイレを多めに用意しておくなど、極力ストレスを感じないための準備も健康を保つために重要です。



東病棟6階 病棟クラーク
岡 真実さん(入職14年目)

Profile

前職は水泳のインストラクター。現在は、社会人ソフトバレーのチームに所属し、仕事後、週4回を練習に費やすほどのスポーツ好き。

仕事についたきっかけ

看護師の友人からこの仕事を教えてもらいました。元々医療にも興味があり、人と関わることが好きだったので入職を決めました。



どんな仕事をしているの?

病棟クラークは病棟入口にあるスタッフステーションで、窓口や電話対応をはじめとする事務作業を担当します。入退院に関する問い合わせや手術・検査の呼び出し対応、医師や看護師への連絡、入院の書類管理から患者さんやご家族への説明まで、さまざまな業務に対応します。特別な資格は必要のない仕事ですが、医師や看護師、患者さん、ご家族それぞれをつなぐ重要な役割を担っています。いろいろな立場の人たちと関わるため業務は幅広いですが、その分、周りの人たちからもらえるたくさんの「ありがとう」が私にとっての一番の原動力になっています。



仕事の相棒

「ボールペンと指サック」

看護師への報連相は必須。入院患者数が多いときには、先回りして調整を行い、サポートする。

事務仕事が多く、ボールペンと指サックが欠かせない。ボールペンは何種類か持っていて、書類によって使い分けている。

東病棟6階 看護助手
松島美奈さん(入職26年目)

Profile

着物の会を自身で企画し、県内の着物好きと交流するほどの愛好家。裁縫も得意で、バッグから洋服まで何でも作る。

仕事についたきっかけ

本院の看護師だった義母からの紹介です。前職はプログラマーで、畑違いの仕事でしたが、資格なしでも働けるため入職を決めました。



どんな仕事をしているの?

看護助手の仕事は、主に病棟で働く看護師のサポートです。患者さんの搬送や入院のための病室準備、トイレ・洗髪の介助などを行います。ほかにも環境整備といって、医師や看護師が使う物品を整理整頓して並べるのも仕事のひとつ。使う人と相談しながら効率よく作業ができる配置を考えています。また、「明るく元気に楽しく」が私のモットーなので、働くスタッフや患者さんと接するときには、そのモットーを心がけながらコミュニケーションを取っています。患者さんからは「松島さんと話す元気もらえる」と声をかけていただくこともあり、入院生活の支えになれると何よりうれしいですね。



仕事の相棒

「メモバンドと時計」

患者さんの快適な入院生活のために、医師や看護師とは積極的に情報共有・意見交換を行っている。

時間に追われる仕事なので、時計は必須。お願いされたことは忘れないよう、時計の横のメモバンドでサッとメモを取る。

トフダイ
研修医

vol.2

これからの医療を支える、
徳島大学病院の若手医師・研修医に
スポットをあてるこのコーナー。
第2回目は、2年目研修医の秋澤先生を突撃!



徳島大学病院 2年目研修医
秋澤聡秀 先生(30)

頼れる仲間と支え合いながら
理想の医師を目指す

医師である父の背中を追いかけて、この道を志したという徳島大学病院2年目研修医の秋澤聡秀先生。幼い頃から自分も医師になりたいという気持ちを抱いていたそうですが、進路を考える時期に、仕事について熱心に話してくれた父の姿に、より自分の中の医師への想いや覚悟が明確になったそうです。

出身は高知県。徳島大学医学部へ進学し、卒業後、徳島大学病院での研修を選択しました。研修医となり、はじめて経験するリアルな医療現場では、座学とのギャップに戸惑う場面があったものの落ち込むことはなかったそうです。持ち前のポジティブな性格に加え、大学病院の充実した研修制度と手厚いサポート。そして何より、研修センターのスタッフや同期たちといった頼れる仲間の存在が大きかったそうです。「親元から離れて暮らしている僕にとっては、センターのメンバーは家族のような存在。ここを選んだよかったと心から思います」と笑顔で話してくれました。

研修では[AWAすだちプログラム]を専攻する秋澤先生。1年次にほぼ必修科は履修し、4月からスタートした2年次は興味がある科を中心に選択し学びを深める予定だそうです。実際に1年次の研修を通して、未来を担う子どもたちの健康を支える小児科医の重要性を実感し、将来の進路として検討中だそうです。「今後のことは研修を進めていくうえで決まらない部分もありますが、患者さんと近い距離で、気軽に話をしてもらえるような医者になりたいという強い思いがあります」。秋澤先生は、今まで間近で見てきた父の姿に自分を重ねながら、患者に寄り添う医師を目指し今日も研修に励んでいます。



昼休みや研修先の科で仕事を終えた後は、自然と研修医たちが研修室に集まってくる。先輩後輩の垣根もなく、冗談を言い合う声も響く。



研修期間は指導医のサポートを受けながら現場で学べる貴重な時間。参考書で学んだ知識に、経験がプラスされ、より理解が深まっていく。

[AWAすだちプログラム]って?

徳島大学病院と徳島県内や四国内のみならず、全国の協力病院での研修が可能なプログラム。研修内容や時期は自由に選択可能なので将来の進路やステップアップにつながる。協力病院では、プライマリケアから高度先進医療まで幅広く学ぶことができる。



秋澤先生ってこんな人!

3人兄弟の長男!
妹2人の頼れるお兄ちゃん。

高知県出身
徳島大学医学部卒業

B'z、Mr.Childrenが好き

趣味はエレキギター。大学時代は軽音部に所属。バンド活動では、ヴォーカルを担当することも。

大学進学を機に、徳島県へ
緑もゆかりもなかった徳島。第一印象は「とにかく風が強い」。

性格はポジティブ
座右の銘は「生きているだけで、丸儲け!」

門田副センター長より

人の良いところを見つけることが上手く、何事も楽しんで取り組むことができる、魅力あふれる先生です。同期からの信頼も厚いナイスガイですね!

医療現場の最前線

徳島大学病院の先進的かつ高度な医療技術にスポットを当てるこのコーナー。今回は、『再生医療細胞調整センター』についてです。人間の体が持っている「再生力」を利用し、細胞や組織・臓器の治療を行う「再生医療」。希望が広がる先進医療がここ徳島大学病院でも進んでいます。

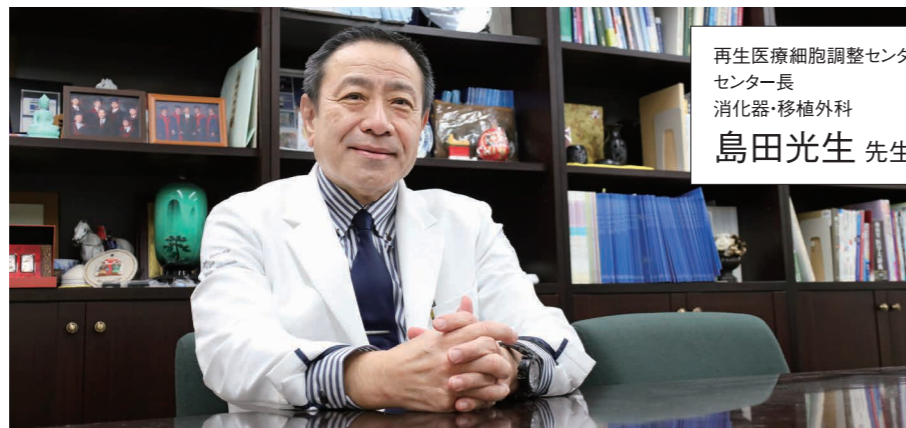
四国の再生医療の拠点となるセンターを目指して

高度な技術を要する細胞調整*が可能なセンターとして、厚生労働省の「再生医療等製品の製造管理及び品質管理の基準に関する省令(GCTP)」基準を満たす「徳島大学病院再生医療細胞調整センター」。大学病院内に併設された細胞加工施設(CPC)としては四国初で、すでに確立された治療法から先進的な研究開発・施行まで幅広く対応しています。

このセンターには、2つの異なるグレードの培養室を完備。徳島大学病院の消化器・移植外科、形成外科、血液内科、呼吸器・膠原病内科などの医師が参加し、細胞移植治療や精製・抽出、各種治験を行うことが可能な体制になっています。

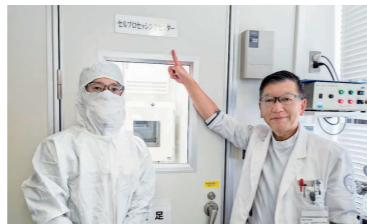
再生医療は従来、各診療科で研究を進めていましたが、センター設立後はここを中心にそれぞれの医師が連携し、知識・治験が集まる充実した環境が整備されています。将来的には再生医療技術を用いて統合的な治療を行い、自院だけではなく他施設にも製品を供給するなど、将来的に大きく発展し、四国のみならず日本を牽引していく施設として期待されています。

*細胞調整…再生医療に必要な幹細胞・前駆細胞・体細胞などを加工・製造すること。



再生医療細胞調整センター長
消化器・移植外科
島田光生 先生

徳島大学病院 再生医療細胞調整センター



令和6年4月からは、日本再生医療学会認定の臨床細胞培養士を1名配置。より高い水準で無菌性の担保された培養が可能な体制となっている。

ここ徳島大学病院から、未来を切り開く治療を

現在すでに形成外科で治療が開始されているものに[多血小板血漿治療]があります。患者さんから採血した血液を遠心分離等で凝縮し、傷やケロイド部分に注射することで傷を治す治療法で、10例程度の治療実績があります。さらに、徳島大学病院独自の取り組みでは、1型糖尿病患者に対し、脂肪由来幹細胞(ADSC)からインスリン産生細胞の分化・移植治療を行う準備を進めており、早ければ2024年度中にも投与が開始されます。そのほか、アンモニア代謝酵素欠損疾患に対し、肝移植の代替治療となる可能性を考慮した研究や、神経因性膀胱の治療法の確立を見据えた研究、血液内科では患者さん自身の免疫システムを利用して、がんを攻撃する治療[CAR-T療法]にも取り組んでいます。

このように今までとは異なる形で病気へアプローチできる治療法が日々計画・研究されています。島田センター長は「再生医療は、未来を変える医療。このセンターが患者さんやご家族にとって、また医療関係者やそれを志す人たちにとっての夢や希望になれば」と語ってくださいました。

治験を実施しています

現在、開発中の医薬品の候補(治験薬)あるいは医療機器を用いた治験を、右記の病気を対象に実施しています。参加いただいた患者さんにおけるデータを集め、有効性や安全性を確認して医薬品や医療機器としての「承認」を得ることが治験の目的ですが、参加いただいた患者さんにとって良い効果をもたらす場合もあります。まずは、よく情報を得ていただきたいと思いますので、お気軽にお問い合わせください。

- 肺がん
- 腎細胞がん
- 肝細胞がん
- 筋層浸潤性膀胱がん
- 乳がん
- 食道がん
- 尿路上皮がん
- 統合失調症
- ALアミロイドーシス
- 金属パネラアレルギー
- 心性浮腫(うっ血性心不全)
- 急性冠症候群
- 眼瞼けいれん
- 痙攣性斜頸
- 難治性てんかん
- 原発性IgA腎症

ご協力
お願いします



問い合わせ:
徳島大学病院総合臨床研究センター
TEL.088-633-9294

からだを支える食のこと

夏バテ対策に!

『鶏手羽元の黒酢煮』と『蒸しナスとトマトのマリネ』



鶏手羽元の黒酢煮

- 材料(1人分)
- 鶏肉(手羽元)…骨付き3本
 - 油…小さじ1/2
 - 玉ねぎ…50g(約1/4個)
 - オクラ…20g(約2本)
 - A:調味液(水…70cc、酒…大さじ2弱、黒酢…大さじ1、だし醤油…大さじ1、砂糖…大さじ1、しょうが薄切り…1枚)

作り方

- ① 深型のフライパンにサラダ油をひき、鶏肉の皮目を下にして並べ、色が変わったら裏返す。両面色が変わったら、キッチンペーパーで余分な油を拭き取る。
- ② ①に混ぜ合わせたAの調味液と、くし切りにした玉ねぎを加え、汁が軽く煮立つ状態で20分ほど煮る。
- ③ オクラはガクをとり、2分ほどゆでる。
- ④ 器に手羽元と玉ねぎ、オクラを盛り合わせ、煮詰めた汁をかけて完成。

栄養量 エネルギー383kcal/脂質21.5g/炭水化物21.5g
塩分1.4g/たんぱく質25.4g/食物繊維1.9g

夏にさっぱり食べられる、疲労回復効果がある「お酢」を使ったメニューです。鶏手羽元は黒酢の効果で柔らかく、こくのある味に仕上がります。マリネは、火を使わずに調理ができ、暑い夏にもお手軽に作れるレシピです。



教えてくれたのは… 栄養部 副栄養部長
鈴木佳子さん

蒸しナスとトマトのマリネ

- 材料(1人分)
- ナス…70g(小1本)
 - トマト…30g
 - A:調味液(オリーブオイル…大さじ1/2、りんご酢…大さじ1/2、砂糖…小さじ1/2、塩…0.5g、こしょう…適量)

作り方

- ① ボールにAの調味液を混ぜ合わせる。
- ② ナスのヘタを除いて、ピーラーで皮をしま目にむく。ラップにつつま、電子レンジ(600W)で2分間*加熱したあと、ラップごと水につけ冷やす。
- ③ ナスの水気をふき取り、輪切りにする。トマトは2cm程度の角切りにする。
- ④ ナスとトマトをAの調味液にからめ、冷蔵庫で冷やして完成。

*電子レンジの加熱時間の目安は、ナス1個につき、600Wで2~3分。長めに加熱するとよりクタクタとした食感に。

栄養量 エネルギー85kcal/脂質6.1g/炭水化物6.7g
塩分0.5g/たんぱく質1g/食物繊維1.8g

LUNCH

働くヒトのお昼ごはん

徳島大学病院で働くヒトたちの「お昼ごはん」をのぞき見るこのコーナー。「ちょっと一口…」と思わず手が伸びそうになるバラエティに富んだステキなお昼ごはんを取材させていただきました。

トロ＆まっくろくろすけ弁当



事務部 医療ソーシャルワーカー
近藤佳那さん

「午後からの仕事も元気に取り組めるよう、たんぱく質たっぷり、見た目も可愛いお弁当に。キャラ弁部分は手先が器用な夫作です(笑)。玉子焼きは白身をしっかりと溶いて出汁で味付けすることでキレイな黄色になるんです!」

『天吉うどん』とり天ぶっかけ



呼吸器外科 医師
竹内大平さん

「冷たいぶっかけうどんに、あたたかい鶏の天ぶらのコラボが好きでよく食べています。さっぱりしつつも、食べ応えがしっかりあり、ちょうどいいカツ丼も推しメニューで、今週は頑張ったなというときに注文しています。」

栄養満点◎彩り弁当



医療技術部 歯科衛生士
久保枝莉さん

「毎日のランチは、料理上手の母が作ってくれる自慢のお弁当です♡この日のメインは大好きな鶏むね肉の味噌漬け焼き。ほかのメニューも栄養バランスや彩り、味付けが工夫されていて、一つひとつに母の愛情を感じます。」

ツナガル —地域連携病院紹介—

地域連携病院とは？

本院と患者さんが住んでいる地域の診療機関と連携することで、大学病院から地域の病院、そして在宅療養へと継続できるようサポートしています。県民のみなさんに住み慣れた地域で安心して暮らしていただくため、チーム医療で治療にあたっています。



地域連携病院：

医療法人 尽心会 亀井病院

診療科目：

- 腎・泌尿器科 ●透析科 ●緩和医療科
- 腎臓・高血圧内科 ●総合診療科 ●麻酔科
- 循環器内科 ●整形外科



腎・泌尿器疾患の 専門病院として

腎・泌尿器疾患の診断と治療に特化する『亀井病院』。尿路結石症、前立腺肥大症、透析シャントなどの手術に対応し、透析療法では現在約150名の患者さんを受け入れています。専門医を厚く配置し、先進の医療機器をそろえるほか、2023年には前立腺肥大症に対して水蒸気を利用した[WAVE治療]ができる医療機器を四国で初めて導入。手術時間が約10～15分と短時間なので、身体への負担を考えて今まで手術が難しかった人への適応が期待されています。

“緩和”と“治療”を 両立させたケア

緩和医療と聞くと終末期のケアをイメージする人も多いですが、近年ではがんと診断された時点から導入し、治療と並行して行うべきものだとされています。同院では、緩和医療学会認定医である院長を筆頭に、PCT(緩和ケアチーム)を立ち上げ緩和医療に注力。腎・泌尿器のがんだけでなく、小児がんを除く他のがん患者の受け入れも行き、患者さん一人ひとりが負担を軽減した適切な治療を選択できるよう尽力しています。

地域と連携し、 人と人をつなぐ

患者さんやご家族に切れ目のない医療を受けてもらうため、院内には地域連携室を設置しています。「顔の見える関係づくり」を大切に、昨年は県内の約200件の医療機関や施設を実際に訪問。紹介元の担当医とは患者さんの情報共有、同院から転院する患者さんには他の病院・施設の特長や雰囲気などを詳しく伝えるなど、患者さんを取り巻く機関と密に連携を取り、最適なタイミングで最大限のサポートができるよう体制を整えています。

From Staff



スタッフのみなさん

患者さまやご家族を第一に考え、“ともに歩む医療”を実践しています。多職種が一丸となり、専門性の高い医療を提供していますので、腎・泌尿器、透析、緩和医療について、どんなことでもお気軽にご相談ください。

Data

医療法人 尽心会 亀井病院

徳島市八万町寺山231
TEL 088-668-1177(代表)
診療時間 / 9:00～12:00、14:00～16:30
(※予約制外来)

休診日 / 日曜、祝日
病床数 / 42床



ホームページ

医療のギモン

vol.2 …… キニナル 「レントゲン・CT・MRI」

医療に関する気になる疑問を解決するこのコーナー。
今回は、普段検査でもよく用いられる“レントゲン・CT・MRI”について、専門の方に聞きました。



私がお答えします！

医療技術部
診療放射線技師
かのしげ
鹿重俊哉さん

Q1 レントゲン・CT・MRIの違いは？

	レントゲン	CT	MRI
特徴	放射線を用いる。一方からの2次元的画像。	放射線を用いる。3次元的な人体の輪切り画像。	磁場と電磁波を用いる。3次元的な人体の輪切り画像。
メリット	簡単 被ばく量が少なく、簡単に検査ができる。	速い 1回数十秒で検査ができる。造影剤を用いると血管の構造や血流情報を把握することができる。	被ばくなし 被ばくを伴わず検査ができる。筋肉や関節、脳などの領域の検査に優れている。
デメリット	被ばくがある。骨や臓器の影にある病気には気づけない場合がある。	レントゲンと比較して、被ばく量が多い。	体内に金属がある場合、検査に支障をきたす場合がある。1回数十分と検査時間が長い。

それぞれに得手不得手があるので、患者さんにとっての最善の検査方法を担当医と相談しながら、提案してもらうことが大切です。

Q2 何回受けても大丈夫？

A 限度は定められていません。

放射線検査においては、その被ばくによるリスクと検査によるメリットを比較してメリットの方が大きければ検査を行います。また、常識的な範囲の検査であれば、健康被害の心配はないので安心してください。

Q3 検査時の服装は？

A シンプルで無地なものがベスト！

検査時は「ボタンやファスナー、金属がダメ」というイメージがあるかと思いますが、これだけではなく、例えばレントゲンでは、服にプリントされている文字や刺繍が画像へ映りこむことも。検査着に着替えることもできますが、無地で襟などが無いシンプルなTシャツだと安心です。

Q4 妊娠・授乳中でも検査はできる？

A 担当医や放射線技師に必ず事前に申告を。

必要な検査かを判断したうえで、検査をする場合は、内容を変更したり、専用の防護服を着用したりと、特別な対応が必要になります。安全に検査を受けていただくためにも、妊娠中や授乳中には、必ず担当医や放射線技師に事前に相談をしてください。

Q5 閉所恐怖症でも大丈夫？

A 不安の和らぐ方法を提案します。

CTは比較的オープンな機械なので、心配なのはMRI検査の場合だと思います。事前に相談してもらうことで、アイマスクや検査中の声かけ、薬の使用など、工夫によって問題なく検査ができることも多いので、担当医や放射線技師に遠慮なく声をかけてください。

放射線技師 鹿重さんより

放射線技師は医師と連携し、患者さんが安全でスムーズに検査を受けられるようにサポートします。特にCTやMRI検査は経験のない方も多いと思います。検査前や検査時に不安に思うことがあれば、気軽に相談してくださいね。



⚠️ 大事な問診と注意事項

検査前には既往歴や服用している薬についての問診にしっかり答え、絶対絶食などのルールを厳守しましょう。守れていないと、思わぬ身体への影響や検査が中止になる場合があります。

【01】患者支援アプリ「Wellcne(ウェルコネ)」を導入



徳島大学病院では、会計待ち時間短縮を目指して2024年2月に【患者支援アプリ「wellcne(ウェルコネ)」】を導入しました。現在多くの患者さんにアプリをご登録いただき、アプリ決済(後払い会計)の利用件数は順調に増えています。アプリ利用患者さんには、「以前は診察より会計を待つ時間が長かった、早く帰れてうれしい」などのお声をいただいています。本院を受診される際には、アプリの登録をぜひご確認ください。

※後払い会計利用の詳細については、右記ホームページをご確認ください。



【02】2024年「看護の日・看護週間」の取り組みとしてイベントを開催



「5月12日は看護の日 看護の心をみんなの心に」

近代看護を築いたナイチンゲールの誕生日にちなみ、国際看護師協会は1965年から5月12日を「国際看護師の日」、日本では1990年から「看護の日」と制定し、その日を含む日曜から土曜までを「看護週間」としています。

『徳島大学病院看護部』では、2024年5月13日(月)～17日(金)の5日間、「看護の日・看護週間」の取り組みとして、看護の心、ケアの心、助け合いの心を老若男女問わずだれもが育むきっかけとなるよう、外来患者さんと入院患者さんに看護部キャラクターのロゴマーク付きの文具などの配布を行いました。

【03】“ホスピタルギャラリーbe「和紙を装う」展”を開催

本院では、武蔵野美術大学との共同研究により、「美(b)」と「医(e)」のコラボレーションとして、西病棟1階に『ホスピタルギャラリーbe』を設置し、県内作家の作品や武蔵野美術大学の学生作品を展示しています。

2024年4月22日(月)～8月24日(土)には、創作和紙人形作家金山侘子(かなやま ちかこ)氏による「和紙を装う」展を開催しておりますので、ぜひお立ち寄りください。



【04】総合案内・眼科外来ボランティア大募集

徳島大学病院では、院内ボランティアにご協力いただける方の募集を随時行っています。ご興味のある方は下記までお問い合わせください。

【活動内容】

- 病院玄関、診療科窓口での受診手続きの補助
- 車椅子を使用する患者さんの搬送
- 診察室・検査室への誘導

【活動時間】

月曜～金曜(休診日除く) 8:30～14:00

徳島大学病院総務課 TEL.088-633-7463

サブタイトル……………SIDE YOU(サイドユウ)

『あなたのそばに』を意味します。この冊子が県民の皆さまの健康と笑顔に寄り添うものになるようにと願いを込めて名付けました。さらに、小文字の「私」を表現し、「あなた(YOU)」と「私(i)」を繋ぐものがこの「SIDE YOU」になればという思いも込められています。

徳島大学病院広報誌「徳大病院ニュース SIDE YOU」vol.2

発行/徳島大学病院 徳島市蔵本町2丁目50-1

発行者/病院長 香美祥二

2024年7月10日発行

問い合わせ/徳島大学病院総務課広報・企画係 TEL.088-633-7697



『徳島大学病院』ホームページ